

一 告 一

KIT
キャンパス
レポート



籾崎 有美恵（あひさき ゆみえ）
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
兵庫県 須磨学園高等学校出身

自分が納得できる勉強がしたいと 医工連携プロジェクトのある大学へ。

「National Geographic」はビジュアルを多用した有名な科学雑誌である。親が定期購読していた籾崎さんは幼い頃からその写真を眺めるのが好きだった。小学二年の時、義足を研究開発する大学を紹介する記事に感銘し、そういう仕事をしたいとの思いをずっと持ち続けて大学進学を考えてきた。

「有名無名に関わらず、自分が納得できる勉強ができるかを最優先しました。すると親が医工連携をやっている大学があるよと。名前は知らないけれど、私には合うだろうと金沢工大を受験しました。一年から三年まで医工連携プロジェクトに参加し、静脈注射のシミュレータの開発を。途中からはオリジナルのアプローチをしようとして話し合っって新しい提案をしたり。」

当初は機械寄りのプロジェクトだと思っていたらしいが、その先の医者・看護師あるいは患者を想定した内容で、医療の知識を多く学ぶことになる。学部での研究室は義足の延長で選んだが、さらに医療従事者に近い研究をしたいと考えるようになり、大学院では高野則之教授の研究室に入った。高野先生の専門は固体電子論、計算材料学、医用生体工学である。

「学部の時は静かな先生という印象でしたが、研究では親身な熱い気持ちで伝わってきます。今の研究テーマは『人工股関節の応力伝達性の評価指標の検討』です。正常股関節と違って人工股関節は骨への力の伝達を妨げるという問題があって、伝達性を正しく見合わせる指標をつくるという研究です。実際の患者さんのCTデータを使って応力を調べています。」

スも開講されており、籾崎さんも一年と二年の時に受講した。指導や教材、ディスカッションや成果物の作成・発表まですべて英語だ。「いろんな学科から二十数名。帰国子女や英語の得意な学生、グローバル企業をめざす学生などさまざまで、英語で話すことへの抵抗感がなくなりました。学部では課題が大変なんですけど、自習室にみんな集まって勉強するので、それほど苦にならなかった。それに信念を持って積極的に活動する学生が周りにいて、私もやらなきゃ、という気持ちになりますね。」

いずれは憧れの海外で勤務したいと医療機器メーカーへの就活に忙しい毎日を送る。籾崎さんのような自分の価値観をしっかり持つ自立した学生の多いキャンパスは、きっと楽しいと思つた。

金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七一
電話番号(076)2481100